

第16回全道少年U-10サッカー北北海道大会 準決勝・決勝 戦評

<準決勝>

北海道コンサドーレ東川U-12（旭川地区） VS Faminas（旭川地区）
6-0（前半2-0，後半4-0）

旭川勢同士の対戦となった準決勝。Faminasのキックオフで試合が始まる。

コンサは3-2-2、一方のFaminasは3-3-1のシステム。試合序盤からコンサが押し気味に試合を進める。試合開始早々、コンサは、⑨→⑬とつなぎシュートを打つもFaminasキーパーの好守に阻まれる。その後もコンサがシュートチャンスを作るが、なかなかゴールを奪うことができない。

しかし、4分、コンサは、右サイドで得た⑭のフリーキックを⑨が頭で合わせ先取点を奪う。

Faminasも中盤の両サイドが幅を使い、高い位置を取りチャンスをうかがうが、コンサのボールの寄せが速く、なかなかボールが繋がらない。9分、コンサは、再びフリーキックのチャンスを得る。ゴールに向かうボールが味方選手に当たり、そのこぼれ球を⑪が落ち着いて決め2点目を奪う。その後もコンサがチャンスを作るが、Faminasの⑭が広い守備範囲でカバーし追加点を許さない。

ハーフタイムでは、コンサベンチからは、もっとチャレンジしよう。体の強い選手に対してもたまそう。かわそうという指示が伝えられる。一方、Faminasベンチからは、1対1の球際で負けないこと。0-0からスタートしようと声がかかる。



後半開始早々、Faminasが右サイドで⑬→⑬→⑭とボールをつなぎチャンスを作るも、コンサゴールに迫ることはできない。2分、Faminasは⑬がドリブルからミドルシュートを放つ。このままFaminasがペースをつかむかと思われた3分、⑭からのロングボールをタイミング良く相手DFの裏に抜け出したコンサ⑯が、落ち着いてシュートを決める。余裕

の出てきたコンサは、DFの攻撃参加も見られるようになる。Faminasも何本かパスが通った時には、相手ゴール前にボールを運ぶことができるが、攻守の切り替えが速いコンサの前になかなかシュートシーンを作ることができない。その後も、コンサは、攻撃の手を緩めない。6分に、⑨→⑯とつなぎシュートを決める。



8分には、相手のパスをインターセプトした⑩がそのままドリブルで運び、相手GKの頭を超す技ありのシュートを決める。更に、9分には、再び⑩が、見事なボールさばきで相手DF陣をかわし追加点を奪う。最後まで試合をあきらめないFaminasは、試合終了間際に③、④がチャンスを作るも、コンサゴールをこじ開けることはできず、試合終了のホイッスルが鳴る。



この準決勝、最終的に得点差は開いたものの、互いに集中力を切らさず、ボールを大切に運び、つなぎ、最後まで粘り強くプレーを続けた好ゲームとなった。残念ながら敗れたFaminasだが、選手が入れ替わる中での北北海道大会2年連続ベスト4は賞賛に値する。私は、昨年も試合を見させてもらったわけだが、ベンチワーク含め、チーム全体で戦う姿勢にたいへん

好感がもてるチームであった。今後の更なる活躍を期待したい。

(文責 十勝少年サッカー連盟 喜多 進)

<準決勝>

別海サッカー少年団 A (根室地区) vs

網走市サッカースポーツ少年団 (オホーツク地区)

2-0 (前半1-0, 後半1-0)

前日までの雨も上がり、良いピッチコンディションで迎えた準決勝。別海は高い位置から積極的にプレッシャーをかけ、中盤で相手ボールを奪い、そこを起点としたサイド攻撃で再三のチャンスを作りゲームのペースをつかむ。対する網走は少し守備の時間が長くなる試合展開となったが、粘り強くディフェンスをし、中央の⑩の選手にボールをつなぎそこを突破口に相手ゴールに迫るプレーを見せる。4分には相手クリアボールを奪った⑩がシュートを放つがキーパーに止められる。得点が動いたのは7分。



中盤の競り合いからこぼれたボールを別海⑥がコントロールし、そのままシュート。20メートルを超えるロングシュートがネットを揺らし別海が先制した。その後も別海がペースを握り、10分にはスローインから繋いだボールを中央で受けた⑥がシュート。網走は体を投げ出してブロックして追加点は許さず前半を終了した。

ハーフタイム、網走は、リードされているが焦らずにいていねいにつないでいくこと、戦う気持ちをしっかりもってあきらめずにプレーすることを選手に伝えた。一方別海は、ポジションを修正してさらにチェックのタイミングを早くすること、積極的にシュートを打つことを確認した。

後半の立ち上がり、先にチャンスを迎えたのは網走。中盤から抜け出した⑩がミドルシュート。鋭いボールがゴールに向かうが、GKの正面をつき得点には至らなかった。ここから別海のハーフタイムで確認された戦術が活かされ、高い位置でのボール奪取の回数が増え数多くゴール前でのチャンスを作り出した。

2分には中央で⑥が奪ったボールを右サイドの⑭に展開、ゴール前まで持ち込みシュートを放つ。続く4分には⑭からDFの間を抜くスルーパスが⑨に通され決定機を迎えるがシュートは惜しくもゴール右にそれる。そして5分、再び別海⑭が起点となり左サイドに展開されたボールを⑩が深く持ち込みクロスボールを入れる。GKがはじいたボールをゴール前に詰めてきていた⑭がシュートし、2点目を奪う。反撃したい網走は、⑩にボールを集めるが、別海の速いプレッシャーに苦しめられなかなかゴールに迫ることができない。それでも粘り強くボールをつなぐ網走は、9分スローインからのボールを受けた⑩がミドルシュートを放つが、GKの好セーブにあう。2点をリードした後も守りに入らず、高い位置でボールに



チャレンジしそこからサイドに展開してゴールに迫るサッカーを貫いた別海は、ゲームの主導権を離さず試合終了の笛を迎えた。



2-0で別海が決勝に進むことになったが、リードされても粘り強い守備からボールをつなぎチャレンジし続けた網走、鋭い出足のインターセプトで相手のボールを奪い攻撃につなげていった別海、両チームの持

ち味が発揮された好ゲームとなった。また、チームで確認した戦い方を選手が理解し、ピッチ上で表現しようとしていることが伝わってくるプレーが多く見られたことも印象的な準決勝だった。

(文責：十勝少年サッカー連盟 二ツ山)

<決勝> 北海道コンサドーレ東川U-12 VS 別海サッカー少年団A
3-0 (前半0-0, 後半3-0)



決勝戦は、くしくも予選リーグで対戦したチーム同士の戦いとなった。固い守備から速い攻撃でボールを運び、相手ゴール前に人数をかけるサッカーが特徴的な別海か。小さい体の選手が多い中、ドリブルとパスを駆使し、多くの得点シーンを作ってきたコンサ東川か。予選リーグでは、勢いに勝る別海が、コンサの攻撃をしのぎながら、効果的な攻撃を見せ4-1で勝利した。この決勝戦、リベンジに燃えるコンサの攻撃に対し、別海が受け身にならず、予選リーグ同様に伸び伸びとしたダイナミックなサッカーを見せることができるのか、とても興味深い決勝戦となった。



試合の立ち上がり、リベンジに燃えるコンサが攻撃をしかける。⑤からのパスを受けた⑨がシュートを打つも、別海DF陣の寄せが速くブロックされる。別海も⑩のドリブル突破からチャンスを作る。3-2-2のコンサに対し、2-3-2の別海だが、別海の両DFの速いボールへの寄せにコンサはプレーの判断がやや遅れる場面が続く。

一方コンサも、予選で4失点した守備を修正し、DFの立ち位置やカバーの選手の意識など、別海の速くて強い攻撃を許さない。試合中盤過ぎから、別海の選手の出足がやや鈍くなり、徐々にコンサペースとなる。コンサは、⑨、⑪、⑮が何度か決定機を迎えるも、フィニッシュの精度が低く、枠をとらえることができない。また、無理な距離からのシュートも見られる。



ハーフタイム、コンサ東川は、無理やりのシュートが多いので、余裕をもってプレーしよう。プレッシャーに負けずに勝ちたい気持ちを120%出そう。別海は、本気のコンサに0-0は悪くない。今まで通りのプレーをしよう。気持ちで負けないように頑張ろう。と声がかかる。



前半を0-0で終え、1点が重くのしかかる後半がスタートする。開始早々、相手のボールを奪ったコンサは、速い攻撃をしかける。右サイドの⑱からパスを受けた⑮がドリブル突破からゴール左隅へシュートを決め先制点を奪う。その直後、別海⑭が相手DFをかわしてシュートを打つも、惜しくもGK正面に。1点を取られたことで、逆に動きの良くなった別海は、⑩を前線に上げ連続攻撃をしかける。左サイドからのセンターリングは、コンサDFにクリアされる。この時間帯に同点に追いつきたい別海であったが、4分、中盤でボールを拾ったコンサ⑪が、GKの頭越しのシュートを決め追加点を奪う。続く8分には、ドリブルで相手DFを引きつけた⑪が、⑮につなぎ、更にサポートに入った⑲へ落とし、その⑲が試合を決定づける見事なシュートを決める。別海も最後の力を振り絞り、コンサ選手に体を寄せるが、余裕の出てきたコンサの速いパス回しと、変化のあるドリブルになかなかボールが奪えない時間が続く。コンサ旭川に歓喜の優勝の瞬間が訪れる。



予選リーグのリベンジを果たし、見事な戦いぶりで初優勝を飾ったコンサドーレ東川。⑪のドリブル、⑭の的確なポジショニングだけでなく、チームとしてボールを奪う意識の高さ、連動した動きはこの年代としては圧巻だった。試合ごとにたくましさを感じたのは、私だけではないだろう。



一方、惜しくも敗れた別海だが、その戦いぶりは今大会を大いに盛り上げてくれた。決勝戦を含めた6試合、チーム一丸となって勝利に向かう姿は印象的だった。ここ数年力を付けてきた根室地区のサッカーであるが、今大会での別海の活躍は、同じ道東地区の仲間に対しても刺激になることは間違いないだろう。今大会にも参加した中標津と共に、根室地区のレベルを更に高めていくことを期待したい。

ここ数年、北北海道大会では、縦に速いチーム、圧倒的な個の力で局面を打開する選手がいるチームが上位に入る傾向が続いたが、昨年のプロGRESSに続き、今年はコンサドーレ東川がこの大会を制した。両チームに共通しているのは、この年代であっても、しっかりとボールをつなぎ、ピッチを広く使うことを意識し、GKを含めた8人でボールを運ぼうとしていることだ。この年代だからできないではなく、させることが大切であることを、私自身コンサのサッカーから、指導者から学ばせてもらった。

最後になりますが、今大会は、最終日こそますますの天気だったものの、初日、2日目と雨の中での試合が続きました。そんな雨の中、会場設営や撤収作業に協力していただいた地元チームの後援会、並びに関係者の皆さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(文責 十勝少年サッカー連盟 喜多 進)



優勝 北海道コンサドーレ東川 U-12



準優勝 別海サッカー少年団 A



第3位 Faminas



第3位 網走市サッカースポーツ少年団



雨のため急遽屋内で行った開会式
待っている間にみんなが注目していたのは、
アリーナで行われていた幼稚園のサッカースクール



表彰式